

災害ボランティア活動報告(No.45・46)

活動場所:宮城県山元町

関東・東北豪雨による9月10日の鬼怒川の堤防決壊等により、常総市は甚大な被害に見舞われました。そこで、当会も災害ボランティアとして9月20日(日)と10月17日(土)に行ってきました。

9月20日は木下(メンバー)と一般参加6名の方とボランティアを行い、10月17日は木下、広瀬、佐伯のメンバー3人でボランティアに行きました。

なんと、東京で言えば品川区全域ぐらいが水没しておりました。

活動内容:第1回目は決壊したところから、かなり離れていますが2km近く水が来ていました。一般参加の6名の方と一緒にボランティアを行いました。一般家庭に伺いましたが一帯が水没していましたので片付けるのは大変です。家の中の家財道具をかたづけて、あと雑巾で清掃、泥だらけで何度も拭きました。家の周りの片付け、泥と近くの田圃から流れてきたのでしょろ藁が山ほど付いていました。

第2回目は、相野谷町公民館の片付けです。ここも、藁が庭全体に流れてきており清掃しました。あと、公民館のなかの片付けです。



※第1回、参加メンバーとの集合写真



※茨城県のボランティアセンターでのマッチング職員さんもなれて居らず手間取っていました。



※家具を片付け綺麗にしたところ。



※家財道具など駐車場に片付けています。
休憩中



第2回目、常総市のボランティアセンターにてメンバー3人の写真です、



※作業を行った相野谷町公民館



※公民館の中、中は湿っていて泥掻きは出来ないそうです。



※庭の清掃、藁でいっぱいでした。

活動報告:今回、会として2回常総市に行きました。メンバーの方々や私（木下）は個人的に何度も伺っています。第1回目は、駐車場の件もあり集合場所がボラセンからバスで4～50分かかるところでした。

被災者宅とのマッチングでも、慣れていないスタッフのかたで時間がかかりました。

県や市もボランティアセンターを立ち上げる訓練を日頃行うべきだと思いました。

集合時間が7時なのに作業開始が11時近くになりました。自治体の防災意識が問われます。

1回目伺ったさい、避難所において三分の一の方が外国人だと聞きました。たまたまだと思うのですが場所により外国人が多いと知らされました。言葉の問題や習慣の問題など考えなくてはなりませんね。常総市は工業団地が多いからでしょう。

水没に遭った車を、バングラデシュ人の方が2人で片づけていたので、車の持ち主（日本人）に聞くと、エルグランドの高級車で年式も近い車ですが、廃車とのことでした。水没した車は使えないとのことでした。修理するのに多額の金額がかかるそうです。

被害総額は甚大ですね。

余談ですが、バングラデシュ人や東南アジアの方々、被災後すぐに車を売って下さいと回ってきたそうです。廃車でも向こうでは直して売ったり、パーツを売ったりするそうです。タフですね。日本も戦後なんでも再利用したそうですが見習うところもあります。

2回目の公民館では、建物の床下、泥が汚水と共に入ってきたので掻き出さねばならないのですが、乾燥させないと木材が腐ってしまうとのことで、扇風機で乾かしていました。

1ヶ月以上経ってもそんな状況でした。

日本全体がいつそんな状況になってもおかしくありません。自治体だけでなく個人も考えていかなければならないと思います。

以上